

風のたより 8月号

暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今月の風のたよりは式番館2階6ブロックからお届けします。

風の家では前年度からノーリフティングケアの取り組みを始めました。以前、風のたよりでもご紹介させていただきましたが、進捗状況についてお話ししたいと思います。

風の家でのノーリフティングケアは、ご利用者様の状態に合わせ、福祉用具を使用して介護することにより、ご利用者様・スタッフ双方の身体的負担を軽減することを目的としています。また、誤った姿勢による介助をなくすことで、腰痛を予防する効果もあります。社会的に高齢化が進む中、以前から介護に携わる人材不足が懸念されて来ました。また、腰痛は介護の職業病とも言われ、働きたい気持ちはあっても腰痛の悪化や年齢的な体力の衰えによって退職を余儀なくされるスタッフがいたのも事実です。スタッフが身体を壊さず、安心して長く働ける職場づくりを行うことで、ご利用者様にとってもなじみの関係や環境を崩すことなく、安心して過ごしていただける環境を整えることに繋がると考えています。

スタッフの身体にのみに頼った介助方法では、個人の体格・技術による部分が大きいといったデメリットがありました。ノーリフティングケアを行うことでスタッフによる介助の差が解消され、統一されたケアを提供することが可能となります。

このように、ご利用者様の座位姿勢が崩れた場合、後ろから引き上げるのではなく、スライディングシート（摩擦を軽減し、滑りやすいシート）を使用することで最小限の力で座り直しをしていただくことができます。



入浴リフトの写真です。入浴時は衣類を身に着けていない状態であり、身体や床が濡れていて滑りやすく危険が伴いやすい介助の場面でもあります。羞恥心に配慮していても、体を密着せざるを得ない介助方法ではご利用者様の心理的負担も大きくなってしまいます。

リフトを使用することでお互いに安全に安心感を持ちながら介助を行うことができます。

福祉用具を使用した介助方法の技術の習得にはまだまだ時間を要する部分もありますが、教育計画を立て、取り組んでいます。新しい介助方法の導入にあたり、ご利用者の表情や心境の変化により一層注意を払いながら、無理強いせず安心して介助を受けていただけるように導入を進めています。

スタッフからは「ご利用者の表情が和らいでいる」「身体的負担が軽くなった」との声も聞かれ始め、取り組みの成果が見え始めています。

今後も透明性を持ち、風の家の方針や取り組みをご紹介させていただくことによって、風通しが良く、地域の方々に安心してご利用していただける施設を目指していきます。

風の家が表彰されました

令和3年3月29日に風の家が「北九州市自治会活動応援事業者」として市から表彰されました。自治会活動の推進や住みよい地域づくりを継続して支援している事業者が自治会からの推薦により選考、表彰されるもので、八幡西区では風の家を含め6つの事業者が受賞に至り、令和3年6月15日付の市政だよりにも掲載されました。

平成14年に風の家を開業して以来、長年にわたり歴代の区会長様や役員の方々、地域の皆様と共に御開自治区会の様々な行事に参加させていただき、まちづくり協議会や市民センターとの連携に取り組んできました。理事長や施設長をはじめ、職員と共に活動してきたことを評価していただき、この上ない感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、今までと同様に地域への貢献を掲げて施設運営に取り組んでいきたいと思っております。

風の家 事務局長
安達雄二



社会福祉法人 薫風会 風の家

〒807-0801

北九州市八幡西区大字本城 3378 番地 1

TEL : (093) 695-7000

令和3年8月